

Refill サミット 2023 京都宣言

気候変動による異常気象は、2022年でも世界の各地で頻発し、人々の命や生態系を危険にさらしました。さらに、ロシアによるウクライナ侵攻は、国際平和を崩壊させるとともに、世界中で石油、ガス、食品などの高騰を招き、私たちの日常生活にも大きな影響を与えています。新型コロナウイルスのパンデミックで大きく変わった私たちのライフスタイルは、エネルギー危機により、さらに転換を迫られています。

しかし、もともと地球の資源は有限であり、世界が気候変動の危機を乗り越え、将来世代に地球を手渡していくためには、一刻も早い転換が迫られていました。

いまこそ、省エネルギー、省資源、脱炭素型の社会にシステムチェンジする最後のチャンスです。

消費と生産のあり方を持続可能に変革していくことが必要であり、使い捨て容器を回避するオルタナティブな行動「リフィル」は、具体的な取り組みのひとつです。

2019年5月に開始した Refill Japan の活動は、日本の各地で誰もが気軽に水分補給できる給水スポットの普及を進めてきました。デザイン性が高く、利用しやすい給水設備で、観光客や地域住民が、マイボトルに水道水を汲むという、新しい景色は、この3年間で確実に広がっています。

そして、2022年度からは、無料給水だけでなく、持参容器での買い物や、イベントでのリユース食器の導入等、「リフィル」の対象をさらに広げ、普及していくことで、地域から、より少ない資源でより豊かに暮らせる社会モデルをつくろうとしています。

本日、第4回リフィルサミット in 京都に集った私たち Refill Japan のメンバーは、私たちの活動が、地域に、日本に、そして地球に、貢献できる多くの意義を再認識し、さらに広げていくための戦略を議論しました。

私たち地域のリフィル団体は、次の行動を起こすことを宣言します。

- ・地域の幅広い市民や関係者に、給水スポットづくり、リフィル行動の参加を呼びかけます。
- ・地域の水飲み場や協力店舗の現場を確認し、正確なリフィルスポット情報を収集、可視化して情報を発信します。
- ・イベントでのリユース食器の導入や、仮設給水ステーションの設置を通して、環境負荷を低減するとともに、地域の人々にリフィルの体験の機会を創出します。

そして、事業者、自治体、国に向けて、以下を提案します。

大きな公共空間を有する事業者は、

- ・水飲み場や給水インフラを設置し、誰もが利用しやすいようにすること

自治体は、

- ・公共施設に利用しやすい冷水機などを設置し、利用者を熱中症のリスクから守るとともに、質の高い水道水への信頼を高めるチャンスとすること
- ・屋外で人の多く集まる場所に使いやすく魅力的な水飲み場を設置することで、人にやさしく潤いのあるまちづくりを推進すること
- ・地域の事業者にマイ容器での商品提供や、無料給水サービスへの協力を呼びかけること
- ・公共施設の飲料自販機の削減、会議での飲料提供方法の見直し等の率先行動で市民や事業者の行動を牽引すること
- ・地域のイベントでのリユース食器や給水機の導入を支援するしくみをつくること

国は、

- ・消費者がライフサイクル全体の環境負荷を考慮した選択ができるよう、資源使用量やエネルギー消費等の正しい情報を提供すること
- ・公共および民間のオフィスビル等を新築、改築する際には、誰もが利用できる給水インフラを設置することを推進するしくみを構築すること
- ・公共施設の飲料自販機の削減、会議での飲料提供方法の見直し等の率先行動で市民や事業者の行動を牽引すること
- ・より多くの消費者がリユースを選択するために、テイクアウトフードやドリンクの使い捨て容器の有料化、店内でのリユース容器使用の義務付け等を制度化すること

SDGs を達成すべき 2030 年まで残り 7 年の今、市民、事業者、自治体、国が、手を携えて、大きな一歩を踏み出しましょう。

2023 年 2 月 5 日

Refill サミット 2023 in 京都 参加団体一同